

# 地域展開プロジェクト委員会の活動の実際

法人の理念を実行するためには地域との連携が重要であるとの考えに至り、各部所の中核となる相談員・主任・介護支援専門員など関係する職員9名のメンバーで、地域展開プロジェクト委員会を立ち上げた。委員会では①地域に貢献、②地域との協働、③地域のニーズを収集し対応する、の3つの方針を掲げ、様々な活動を実施、結果、地域住民と施設との一体感が芽生え、お互いが協力し合える環境が育ちつつある。

社会福祉法人 **こうほうえん** 〒680-0001 鳥取県鳥取市浜坂228-1  
TEL: 0857-23-6611 / FAX: 0857-23-6613

## ◆ 法人の概要

法人設立年：昭和61年6月

経営施設、事業（数）：10施設、82事業

経営施設、事業（種別）：

特養7、老健3、ケアハウス5、生活支援ハウス4、高優賃1、保育所4、リハ病院1、デイサービス12、ヘルパー4、訪問入浴2、訪問看護3、訪問リハ1、デイケア4、ショートステイ7、特定施設4、福祉用具1、グループホーム8、小規模多機能3

## ◆ 法人の理念・経営方針

<理念>

私たちは、地域に開かれた、地域に愛される、地域に信頼される『こうほうえん』を目指します

<基本方針>

私たちは、サービス業のプロとして、正しい情報を伝達し、自分が受けたい、保健・医療・福祉サービスの、提供・改善に努めます

## ◆ 実施施設の概要

施設名：いなば幸朋苑

施設種別：老人保健施設…100人、特別養護老人ホーム…50人、デイサービス…30人・20人・35人・12人、デイケア…37人、ケアハウス…50人・41人、特定施設入居者生活介護…29人、生活支援ハウス…20人、グループホーム…9人、地域密着型デイ…15人

活動開始年：平成17年9月

活動の頻度・時間：月1～2回、1回あたり1～2時間

活動の対象者：地域の高齢者、住民、利用者、民生委員、地区社協など

## 活動実施の背景、実施にいたった理由

平成17年3月に当施設は第三者評価を受審した。当法人の理念に、「私たちは、地域に開かれた、地域に愛される、地域に信頼される『こうほうえん』を目指します」とあるが、具体的に何をしているかとの指摘を受けた。その指摘を踏まえ、法人の理念を実行するためには地域との連携が重要であるとの考えに至った。各部所の中核となる相談員・主任・介護支援専門員など関係する職員9名のメンバーで、地域展開プロジェクト委員会を立ち上げた。委員会は、毎月1～2回開き、地域との密着度を高める仕組みの構築、及び信頼関係を築く活動を始めた。

## 実施内容

委員会は、3つの方針を立案した。

①地域に貢献 ②地域との協働 ③地域のニーズを収集し対応する

その方針に沿って、以下の活動を実施した。

- ・鳥取市の介護事業所マップを作成し、いなば幸朋苑のパンフレットも作成、担当エリアを決め、公民館や地域包括支援センターなどに配布した。
- ・鳥取砂丘一斉清掃（年2回）、鳥取砂丘除草ボランティア（年1回）の参加を職員に呼びかけた。平成19年度は、延べ86名が参加した。
- ・地域のニーズを収集し「災害時における要援護者の一時避難のための施設利用に関する協定書」の締結に至った。
- ・城北地区の住民が支えあう組織を作るため、年3回、いなば幸朋苑と城北公民館で福祉講座を開催した。講座終了後に修了証書を配付した。
- ・中ノ郷地区の方と行政と合同研修会を行い、民生委員、ケアプランセンターいなば幸朋苑、地域包括支援センターとの情報交換と連携を図った。
- ・グループホームは、あさひヶ丘町内会に入ることができ、納涼祭や敬老会など地元の方と交流を持った。

- ・地元の方の施設見学（民生委員、社協、愛の輪協力員、福祉委員、一般の人）を受け入れた。昨年12月に民生委員の交代があり、福祉の知識と技術を学びたい希望者が多かった。
- ・在宅介護を継続するための介護食の試食や調理講習を行った。

## 活動効果

- ・中ノ郷町内会との合同防災訓練の実施により、地域住民と施設との一体感が芽生え、お互いが協力し合える環境が育ちつつある。
- ・砂丘清掃活動により職員のボランティア意識が高まり、施設の草取りボランティアへ広がった。
- ・中ノ郷地区の納涼祭準備に参加、幸朋苑納涼祭にも地元の方が参加して協働することができた。
- ・民生委員、地区社協の方と交流ができ、そこから地域ニーズを収集して貢献することもできた。
- ・福祉モデルである城北地区に随時、講師の派遣をしている。

## 今後の課題

- ・中ノ郷町内会と防災協定を結び防災訓練に参加しているが、施設独自の自警団を作り、もっと内容のある防災訓練をしたい。
- ・民生委員、社協、愛の輪協力員、福祉委員は要援護者にどう関わっていけばいいのか迷うこともあり、地域福祉の向上に今後どのように協力していくか、いなば幸朋苑ができることを地元の方に発信して、社会資源として活用してもらい、地域福祉ネットワークを構築して拠点になりたい。

